



安 星美

企画設計製図

課題  
集合住宅

3年

担当＝  
小嶋 勝衛  
三橋 博巳  
石田 道孝  
根上 彰生  
柳田 武

安 星美

都市居住のメリットを考え、将来多機能都市を目指す港北ニュータウンのセンター北駅駅前の

敷地に集合住宅を計画した。都市の中で、外から安らぎのある住宅へ（パブリックからセミパブリック、プライベートへ）の空間の移り変わりを意識し、商業施設・多機能な集合住宅共有施設・各住戸を複合した。ここで生活する家族のための施設であると同時に、駅前の顔として近隣住民が利用できる施設でもある。

指導＝石田 道孝

企画設計製図では1ha程度の敷地規模の集合住宅をテーマにしている。学生は自分達で課題条件である立地選定、企画コンセプトの立案を行ったうえで、構想計画案・基本設計に取り組

んでいる。安さん達は、まずグループ3人で立地の選定を行い、都市近郊でグレードの高い住環境が求められている横浜市港北区の駅前周辺の大規模な敷地を選定した。安さんの案は3つのゾーンに区分した内の1つである駅前商業ゾーンを選定した。このため単なる住宅の設計ではなく、駅前に居住する意味と連続する住居地域との関わり、街区のメインファサードとしての位置づけ、これらを同時に解決しなければならなかった。このため商業施設と利用施設、住宅を関連づけることを基本コンセプトとして計画に取り

組んだ。敷地は幹線道路に接する部分から10mの高低差があることを利用して、商業空間動線、住居部分動線の分離を行うとともに、ファサード部分を立体用途利用として商業、パブリック、セミパブリック、住居とを連動させている。住居部分は低層部分と中高層部分に分け、低層部分を幹線道路沿いに配し、デザインに商業部分との連携を図っている。難しいテーマに果敢に取り組む姿勢が好ましい、開発意図に忠実に計画されていることも高い評価を与られます。デザイン面でさらに検討がなされると、さらに素晴らしい提案となります。今後の展開が期待されます。